文部科学省

資料3

文部科学省における AI・デジタル人材育成施策について

令和８年 10月20日（火）

文部科学省　大臣官房政策課

文部科学省におけるＡＩ人材の育成・確保

※黄色ハイライト部分が主なデジタル人材育成施策

令和９年度要求・要望額　3,143億円の内数

文部科学省

「ＡＩ法」（令和７年５月成立、９月全面施行）及び改定「人工知能基本計画」（令和８年７月閣議決定）に基づき、**人とＡＩが協働する社会の実現**に向けて、**現場にAIを実装していく人材**をはじめとしたAI人材の育成・確保や、人とＡＩの役割分担を模索しながら、**ＡＩ社会を生き抜く「人間力」を向上できる環境を構築**する。

人工知能基本計画 ～日本AX、より強く、より豊かに～（令和８年７月14日閣議決定）

ＡＩの利活用や開発を担う人材として、全ての国民がＡＩ適正活用人材を目指すとともに、ＡＸを進める上で中核となるＡＩ実装人材、さらに研究開発やガバナンスの担い手など、人材像を整理し、産学官で質・量の両面から育成・確保に取り組む。（第３章第４節「ＡＩ社会に向けた継続的変革」より）

AI基本計画の５つの人材像

AIガバナンス人材

AI研究開発人材

AIに関する深い理解・洞察を有する高度な専門人材

AIイノベーション人材

経済・社会構造の変革や付加価値の創出を行い、課題 解決を先導する人材

AI実装人材

現場に適合したAIソリューションを提供できる、産業とAIの双方を理解した人材

AI適正活用人材

基礎的な知見・知識を有し適切にAIを活用できる人材

ＡＩの研究開発等に係るエンジニアや研究者などの育成・確保等

▶ **生成AIモデルの透明性・信頼性の確保に向けた研究開発拠点形成　83億円**

次世代生成AIモデル構築の確立に向けた一連の知見と経験をAI研究者、エンジニア等に広く共有。

▶ **AIPプロジェクトにおける人材育成・ネットワーク機能の強化　28億円** ※理研運営費交付金の推計額

理研AIPセンターにおいて国内外の研究機関等の連携・人材育成を強化し、我が国のAI研究を牽引。

▶ **AI for Scienceによる科学研究革新プログラム　1,653億円**

AI for Scienceの波及・振興、国際連携・産学連携を通じた先導的研究の推進により、AIを科学研究に高度に活用できる人材を育成。

AI研究開発能力の強化（若手研究者等）

ＡＸを進める上で中核となるＡＩ人材の育成

▶ **高度統計人材育成強化拠点形成事業　2億円**

データサイエンス(DS)・AIの基盤となる統計学について、大学等における教育・研究の中核となる統計人材の育成に係る取組を支援。

▶ **デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業　3億円**

人文・社会科学系等の分野を専攻する研究科等において、専門分野に数理・DS・AI教育を掛け合わせた学位プログラムの構築を支援。

▶ **専門学校を活用した実践的な職業人材の高度化 102億円（新規）**

地域の人材需要を踏まえ、AIの活用を前提とした教育内容・カリキュラムへの転換などを含む、専門学校の教育の高度化を支援。

▶ **AX実装人材育成拠点形成事業　35億円（新規）**

大学や高専において、文理を問わず、AIを実践的に活用する教育を強化し、実践的なAXを推進する人材を養成する先進的な取組を支援。

▶ **成長分野等におけるリ・スキリングプログラム開発事業　337億円の内数（新規）**

中小企業AX人材を含む、成長分野等のニーズに応じた人材育成を推進するため、大学・専門学校等において、産学官連携によるリ・スキリングプログラムを開発・提供することを支援。

AXの推進 AIスキル獲得（高等教育）

情報活用能力の向上を図るなど、ＡＩ時代にふさわしい教育の推進

▶ **安全かつ主体的なAI活用に向けた環境整備や実証研究 884億円**

学校現場におけるAIの適切な利活用ができるような研修や教育課題に特化した生成AIの利活用に関する実証研究の実施。また、その基盤となる公共性の高い教育データの整備や安全にAIを利活用するためのセキュリティの確保されたクラウドベースのインフラの整備を行う。

▶ **学習指導要領改訂を見据えた情報活用能力の抜本的な向上 13億円**

AIを使いこなす力を含む情報活用能力の抜本的向上に向け、教材開発や研修をはじめ必要な条件整備を実施。

▶ **AIを活用したグローバル人材育成のための英語教育強化事業 4億円**

会話練習量の増加や学ぶ動機付けの強化等に繋がる、英語の授業等における効果的なAI活用モデルを構築。

AIリテラシー向上（初等中等教育）

※ AI人材の育成・確保に資する主な施策を掲載。その他の関連施策として、高校段階における文理の双方の素養を有する人材の育成等を支援するとともに、大学における理系転換等を推進。

（担当：大臣官房政策課等）

（参考）AX実装人材育成拠点形成事業

令和9年度要求・要望額　35億円（新規）

文部科学省

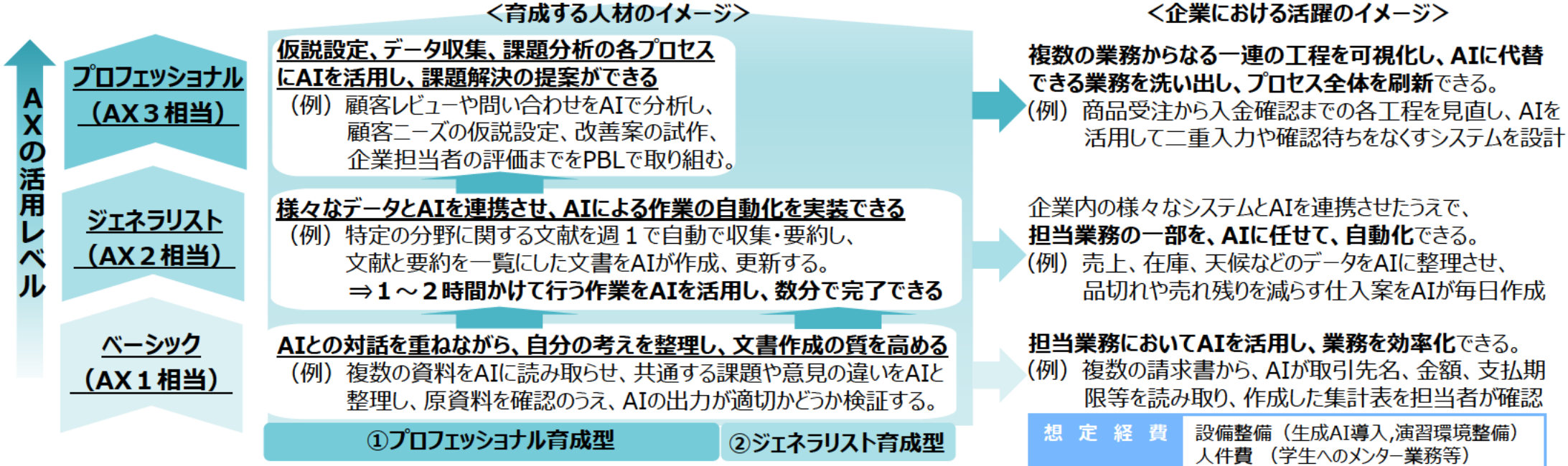
背景・課題

- 産業や職種によらずあらゆる場面でAIを活用していく**AI社会の実現**のためには、**現場とAIの双方を理解し、AIを実践的に活用して、生産性向上や新たな価値を提示できるAX（AIトランスフォーメーション）を推進できる実装人材の育成が急務**。
- 数理・データサイエンス・AI（MDA）教育プログラム認定制度を通じ、全国の大学・高専においてAIの概念や留意事項に関する把握や、社会での応用も含めた基礎的な素養は涵養してきたが、**イノベーション創出につながるようにAIを実践的に使いこなしていく経験**が必要不可欠。

第Ⅱ期人工知能基本計画　～日本ＡＸ、より強く、より豊かに～
（令和８年７月14日閣議決定）
第２章　ＡＩ関連技術の研究開発及び活用の推進に関する施策についての基本的な方針
４．ＡＩ社会に向けた継続的変革（「ＡＩと協働する」）
人とＡＩが協働する社会を実現するため、産業や雇用の在り方、制度や社会の仕組み等を先導的かつ継続的に変革する。現場にＡＩを実装していく人材を始めとしたＡＩ人材の育成・確保に加え、人とＡＩの役割分担を模索しながら、ＡＩ社会を生き抜く「人間力」を向上できる環境を構築する。

事業内容

- 企業や自治体等が抱える課題について**AIを活用して解決する実践的なPBL学習の強化**や、**外部機関が実施する一定の質が保証されたAIの実践力を養う講座の受講により単位認定等を**行うなど実践的なAX人材を養成する大学・高等専門学校の先進的な取組を支援。



期待される効果と中長期的な視点

営業、経理等が担う業務においても、AIを活用して付加価値を生み出す人材育成事例を創出

→ 創出した事例から、全国の大学・高専への普及展開に向けた課題等を精査し、改善

→ **MDA教育プログラム認定制度の見直し検討**も含め、全国の大学・高専への普及・展開につなげる

想定経費	設備整備（生成AI導入,演習環境整備） 人件費　（学生へのメンター業務等） 活動費　（企業と連携したセミナー開催等）
事業実施期間	令和９年度～令和12年度（予定）
件数・単価	【①②の拠点形成補助】①10拠点 × 1.4億円 ②20拠点 × 1.0億円 【審査・評価業務補助】　1箇所 × 1.0億円

（担当：高等教育局専門教育課）

（参考）成長分野等におけるリ・スキリングプログラム開発事業

令和9年度要求・要望額　337億円
うち「強く豊かな日本」投資枠　337億円
（新規）

文部科学省

概 要

- 「量子、航空・宇宙、コンテンツ、創薬などの**17の戦略分野については、大胆な投資促進**、国際展開支援、**人材育成、**研究開発、産学連携、国際標準化、防衛調達を含む官公庁による調達、規制・制度改革**といった、供給及び需要の両面にアプローチする多角的な観点からの総合支援策を講じ」る**こととしている。【第221回国会における高市内閣総理大臣施政方針演説（令和８年２月２０日）】。
- 他方、これらの成長投資を実行するためには、研究開発人材のみならず、実装・製造・保守・運用、AI・データ活用、事業化、標準化、海外展開等を担う人材の確保が不可欠であり、**人材不足が成長投資のボトルネックとなる**おそれがある。
- このため、17の戦略分野ごとに、関係省庁、産業界、大学・高専等からなる分野別WGを設置し、**各分野における人材需要、必要となる人材像・スキル、リ・スキリングによる定量効果を明確化**する。
- その上で、大学等において、産学官連携による短期の実践型のリ・スキリングプログラムを開発・実施し、学修成果の可視化、企業での職務活用、効果測定まで一体的に支援することにより、**17の戦略分野の官民投資ロードマップを支える全国的な人材供給基盤を構築**する。
- 本事業は、個別大学における講座開発にとどまらず、**17の戦略分野の官民投資ロードマップを実行するための人材供給インフラを全国に整備するもの**であり、**各分野の人材不足緩和、労働生産性向上、付加価値やGDP押上げに資するリ・スキリングエコシステムを形成し、「人への投資の好循環」を成長分野において実装**を目指す。

予 算

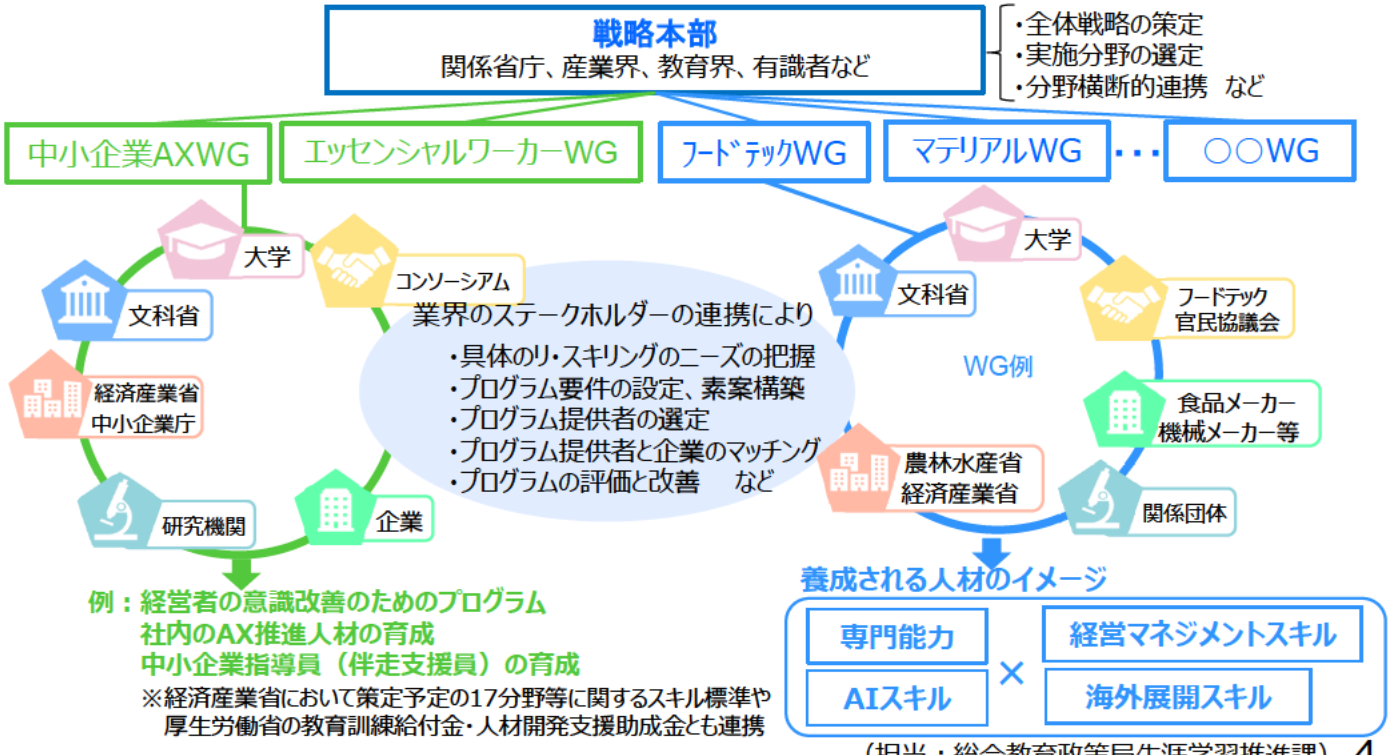
- 戦略分野WG：17WG×10億円
  （WG運営1億円＋3分類×6大学等×5,000万円）
- 中小企業AXWG：1WG×71.5億円
  （WG運営1億円＋47都道府県×3大学等×5,000万円）
- エッセンシャルワーカーWG：1WG×95億円
  （WG運営1億円＋47都道府県×4大学等×5,000万円）

リ・スキリングニーズ（例）

（１）AI実装人材
　各分野の現場の専門能力　×　最新のAIスキル
（２）複数領域の知見を有する人材
　フードテック　×　国際ビジネス　等
（３）各分野に関する専門性向上、最新の知見の習得等

分野	必要な人材像
フードテック	工場メンテナンス・工場新設の担当人材
	プラント設計・運営・管理人材
	食品機械メンテナンス等人材
	新規食品の品質等管理人材
マテリアル	AI駆動マテリアル研究開発人材
造船	船舶の設計・研究開発等を担う技術者
	船舶の建造現場を担う技能者
	法務人材

事業実施プロセス（イメージ）



（参考）AI時代をつなぐ **高度統計人材育成強化拠点形成事業**

－AI・データ駆動型社会の基盤となる統計知の深化と高度活用－

令和9年度要求・要望額　2億円
（前年度予算額　2億円）

背景・課題

- ✓ 加速度的に進化するAIやビッグデータ解析を始めとするデジタル技術を活用して社会課題解決を進めるためには、その担い手となる**人材の育成が不可欠**である。
- ✓ このような中、多くのデータから新たな知見を引き出せるデータサイエンティストの育成に向け、近年、**高等教育組織の整備が急速に進展**した。
  - ○ **「データサイエンス系学部・学科」**の新設ラッシュ、**「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」認定校**の急増
- ✓ 一方、わが国には、これまで、米国等の諸外国に設置されている統計学部が存在しなかったため、データサイエンス・AIの基盤となる**統計学を指導・教育できる人材が不足し、さらに、AI活用時代への突入も乗じて、統計学へのニーズが急増**している状況。
  - ○ 大学教員の**求人公募数：「統計」(128件)**は、データサイエンス・AIと関わりの深い「機械学習」(37件)や「情報科学」(67件)を大きく上回る。
    （2025年 科学技術振興機構 JREC-IN より）
  - ○ 全国の国公私立大学のうち、数理教育は53%、データサイエンス・AI教育は62%で教員が不足（2023年9月 日本学術会議見解）
- ✓ このため、データサイエンス・AIの基盤である『統計学』全般を体系的に教え、機械学習・ディープラーニング等を軸とした統計的思考・手法を活用した研究及び指導を行うことのできる統計教員を始めとする**高度統計人材の育成が急務**。

事業概要

AI時代をつなぐ高度統計人材育成強化のための拠点形成への展開

○ データサイエンス系学科設置校等、AI開発・活用を含めた統計人材ニーズを有する大学との連携を強化し、**前事業である統計エキスパート人材育成プロジェクトでこれまで拡大してきたコンソーシアムを軸に、より有機的な高度統計人材育成ネットワークを構築**し、統計学教員等の高度統計人材の育成ニーズに対応

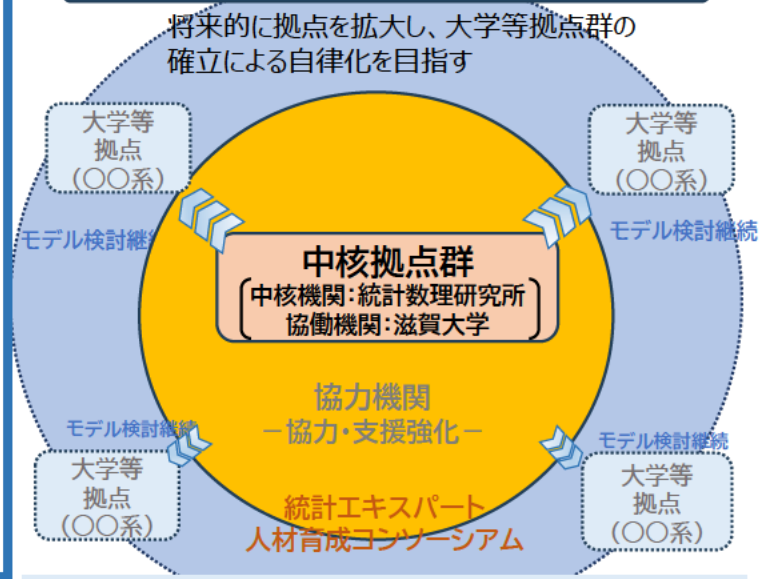
○ 高度統計人材育成ネットワークにおいて、前事業で蓄積された教材やノウハウ等を最大限有効活用し、新たなプログラム開発・実施により、AI時代における高度統計人材の中心となる統計学を指導・教育できる研究者である統計教員を**１サイクル20～30名程度**育成

○ 前事業で形成された大学等によるコンソーシアムを**自律的に活動できるネットワークとして発展**させるために、参画機関からの協力・支援を強化。R9年度は、地域や分野の特性を踏まえた**大学等モデル拠点の調査・検討を進め、**R10から実証（FS）

大学等拠点を中心に、幅広い地域・分野における高度統計人材を自律的に育成するスキームを実現

事業期間（予定）	令和8年度～令和12年度	✓ R8.7月事業開始

高度統計人材育成ネットワーク



令和8年度	令和9年度-令和11年度	令和12年度
アウトプット（活動目標）	**アウトカム（成果目標）**	**アウトカム（成果目標）**
全国的なコンソーシアムを主体とした人材育成プログラムを構築 ：事業期間中、中核機関群を中心とした研修プログラムの年1回以上の実施	コミュニティの裾野拡大、大学側のマネジメント体制を構築し中核機関群を中心に人材育成システムが確立 ：育成人材周知イベント等を年1回以上開催 研修プログラム修了者数を年20人以上輩出	支援期間終了後も持続的に発展可能な統計人材育成エコシステムが確立 ：育成された人材が自機関で年400人以上育成 ※令和15年度を目安に年約500人程度育成

※大学等モデル拠点による人材育成の実現のための調査・検討を継続し、R9中に方向性を固める

【高度統計人材（統計エキスパート）】
大量のデータから有益な知見を引き出し、DXやAI推進を牽引できる高度なデータ分析・活用の中核となり、単に数値を処理するだけでなく、数理統計学や機械学習の専門知識を駆使して高度な課題解決を行う人材

文部科学省

大学等における
数理・データサイエンス・AI教育の推進

令和８年 10月20日（火）

文部科学省　高等教育局　専門教育課

数理・データサイエンス・AI教育に係るこれまでの動向について

2019(R1) → 2020(R2) → 2021(R3) → 2022(R4) → 2023(R5) → 2024(R6) → 2025(R7)

▼「AI戦略2019」策定（2019.6）

▼「デジタル田園都市国家構想基本方針」策定（2022.6）

▼AI戦略 目標年度

エキスパート：トップクラス 100人程度/年 ／ 2,000人/年

応用基礎：２５万人/年 大学・高専の50%

▼モデルカリキュラム公表（応用基礎レベル）（2021.3）

▼応用基礎レベル認定開始（2022年度～）

▼モデルカリキュラム改訂（リテラシー/応用基礎レベル）（2024.2）

▼改訂後のモデルカリキュラムに基づく認定開始（2025年度～）

リテラシー：５０万人/年 大学・高専卒業者全員 ／ １００万人/年 高校卒業者全員 小中学生全員

▼モデルカリキュラム公表（リテラシーレベル）（2020.4）

▼リテラシーレベル認定開始（2021年度～）

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム

全国の大学等への取組促進、普及・展開活動（2017年～）

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム

モデルカリキュラムの策定や教材等の開発・普及、地域ブロックの各大学等の取組支援、FD・ワークショップなど**全国の大学等で教育プログラムを展開させるためのコンソーシアム活動を実施**するほか、教えることのできる人材育成（博士課程教育）機能を強化。

2022年度より、拠点校11校・特定分野校18校の現体制となり、多くの**国公私立大学・高等専門学校が参画し全国9ブロックで活動**

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度

応用基礎レベル（2022年度～）

- 自らの専門分野で数理・データサイエンス・AIを活用できる応用基礎力・実践力を育成（25万人/年）

リテラシーレベル（2021年度～）

- 学生の数理・データサイエンス・AI教育への関心・理解を高め、活用する基礎的能力を育成（50万人/年）

文理を問わず数理・データサイエンス・AI教育を学ぶことができる教育体制の構築を推進。

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の概要

背景・目標

✓デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・AI」の基礎などの必要な力を全ての国民が育み、あらゆる分野で人材が活躍する環境を高等教育段階においても構築する必要がある

✓「AI戦略2019」や「デジタル田園都市国家構想総合戦略」における育成目標

主な取組

1．「数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム」による普及・展開活動
2．「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」による各大学等の取組推進

認定制度の概要

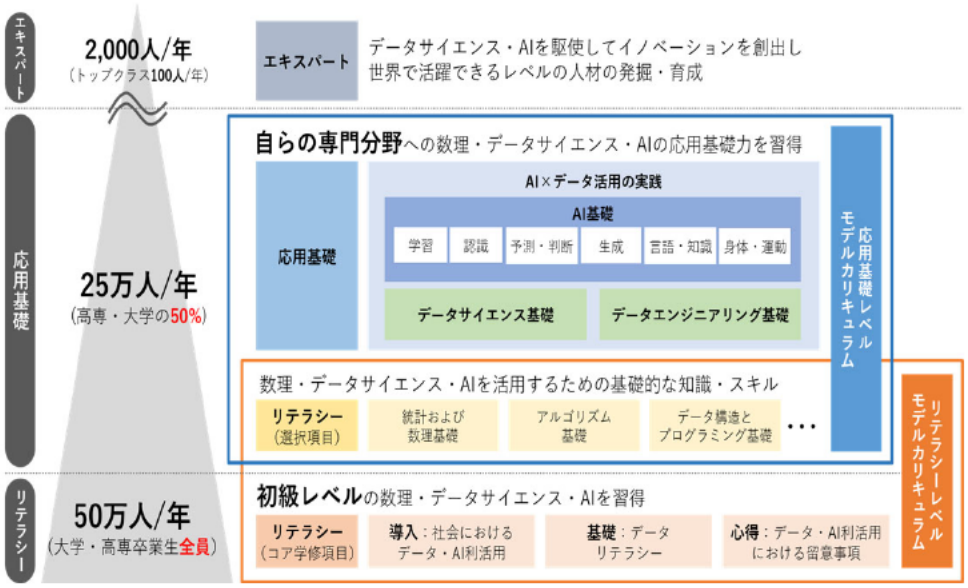
CLICK https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/suuri_datascience_ai/00001.htm

大学・高等専門学校の数理・データサイエンス・AI教育に関する正規課程教育のうち、一定の要件を満たした**優れた教育プログラムを政府が認定**し、教育を推進。
文理を問わず多くの大学・高専が数理・データサイエンス・AI教育を学ぶことができる**教育体制の構築・実施に取り組むことを後押し**！

政府 → 大学 → 数理・データサイエンス・AIの素養のある学生を輩出 → 企業・行政等

・相互連携により社会のニーズに応える
・企業等からの実データ提供などの連携により教育を高度化

数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル／応用基礎レベル）の位置づけ



応用基礎レベル（2022年度～）

MDASH Advanced Literacy

数理・データサイエンス・AIを活用して課題を解決するための実践的な能力を育成

認定数：421件（2026年8月時点）
※1学年あたりの受講可能な学生数：約29万人
（2025年度目標：25万人/年）

リテラシーレベル（2021年度～）

MDASH Literacy

学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、適切に理解し活用する基礎的な能力を育成

認定数：655件（2026年8月時点）
※1学年あたりの受講可能な学生数：約61万人
（2025年度目標：50万人/年）

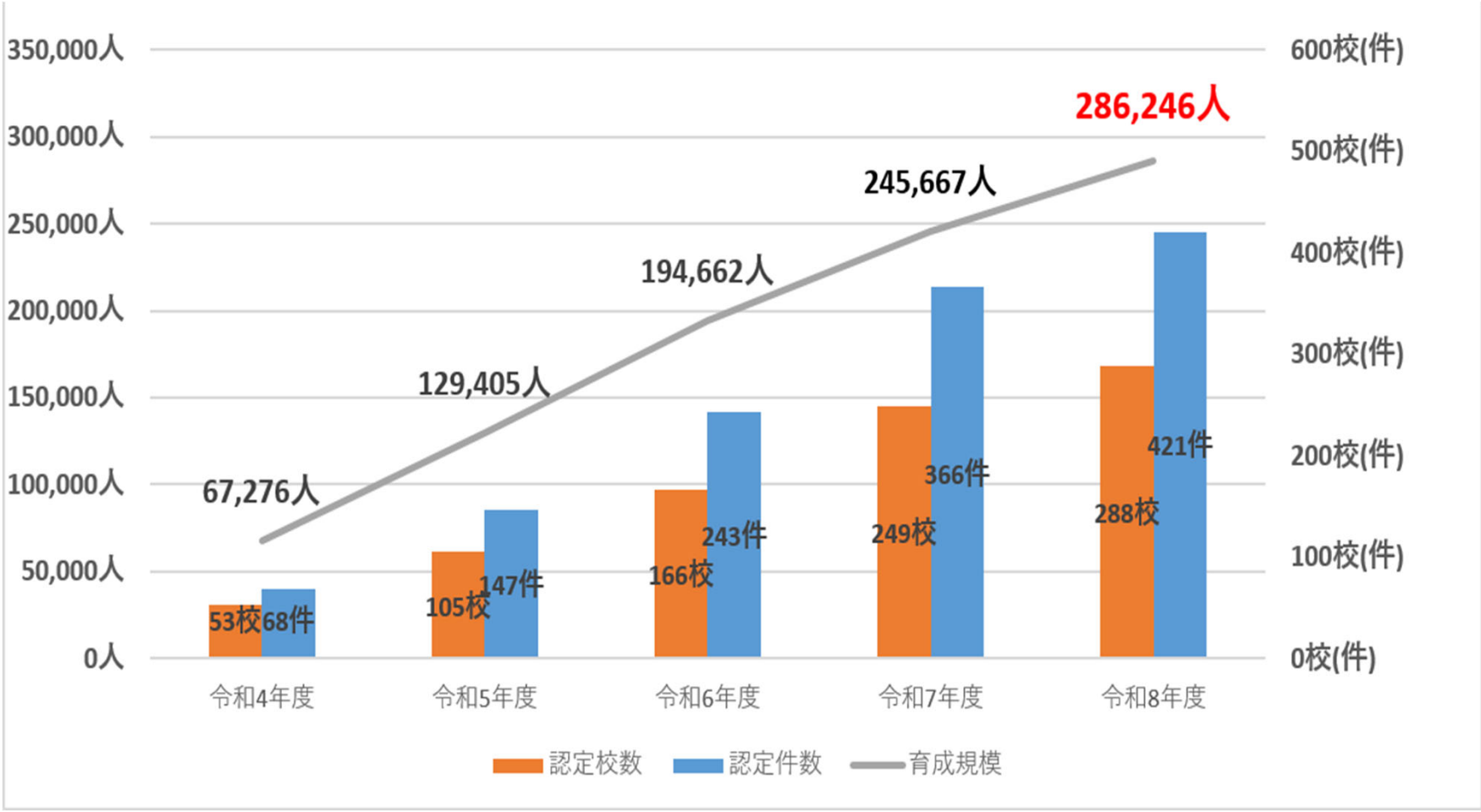
数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム
http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/

全国の大学等で教育プログラムを展開させるためのコンソーシアム活動を実施
- モデルカリキュラムの策定や教材等の開発・普及
- 全国9ブロックで好事例などを普及・展開するためのシンポジウムやワークショップを開催　等

デジタル人材230万人計画におけるKPIと達成状況

担当省庁	施策
文部科学省	大学等における、優れた教育プログラムを国が認定する**「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」**（**KPI: 応用基礎レベルにおける1学年あたりの定員数**）

認定校数・育成規模の推移（応用基礎レベル）



※各年度の人数は認定時点におけるプログラムを受講できる学生の規模で算出